

ART COFFEE



株式会社アートコーヒー
2025年度 サステナビリティレポート

2026年3月

ごあいさつ

アートコーヒーでは、企業理念である「コーヒーを通じて、お客様や社会、そして地球との豊かな共生を実現します。」のもと、SDGsへの貢献を目指し、2022年度にサステナビリティ委員会を発足しました。

コーヒー業界を取り巻く状況は、温室効果ガスの排出による気候変動の影響、生産地におけるコーヒー栽培に関連した環境破壊や汚染、生産者の労働環境、人権など、様々な課題を内包しており、それぞれに対して積極的かつ具体的な対応が求められています。

アートコーヒーは、これら課題に対応するため、社内目標を設定し、全社一丸となって活動に取り組んでおります。

目次

○アートコーヒーが考えるサステナビリティ

- ・スローガン
- ・推進体制

○2025年度の取り組み

- ・マテリアリティマップ(重要度評価)
- ・アートコーヒーのマテリアリティ
- 1.気候変動・自然環境改善への貢献
- 2.持続的なサプライチェーンの維持
- 3.高品質な製品・魅力的な価値提供
- 4.多様な人材の活躍と連携
- 5.コーポレート・ガバナンスの徹底

スローガン

Your Coffee Partner

“Your”は、お客様・お取引先様、社会、そして地球といった、アートコーヒーをとりまく大切な全てを指しています。

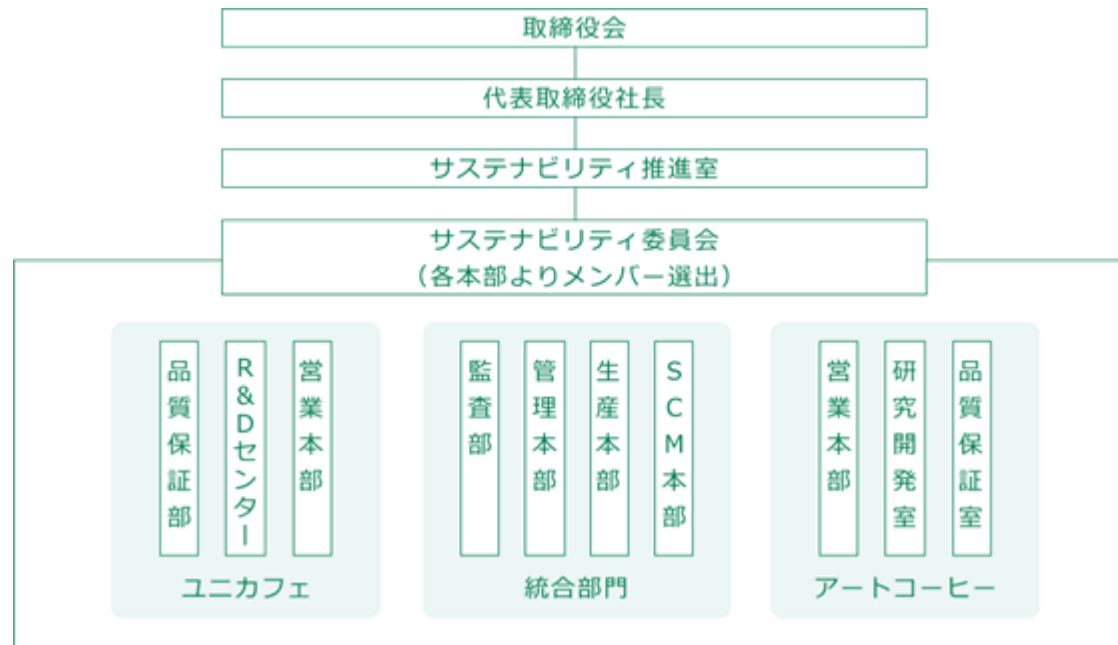
“Coffee”は、現地での生産から消費に至る全てのプロセスを結び付けるアートコーヒーのコーヒーです。

そして“Partner”は、ともに価値を育み、一緒に成長していく信頼関係を表現しています。

人々は長い歴史の中で、コーヒーから活力や安らぎを享受し、またコーヒーを囲んで大切な人との笑顔あふれる時間を過ごしてきました。

このコーヒーによって彩られた豊かな日々が未来に続くよう、このスローガンのもと、一人ひとりが「味の芸術(=コーヒー)」を追求し、寄り添い、向き合い続けながら、全てのステークホルダーと一丸となって行動を起こしていきます。

推進体制



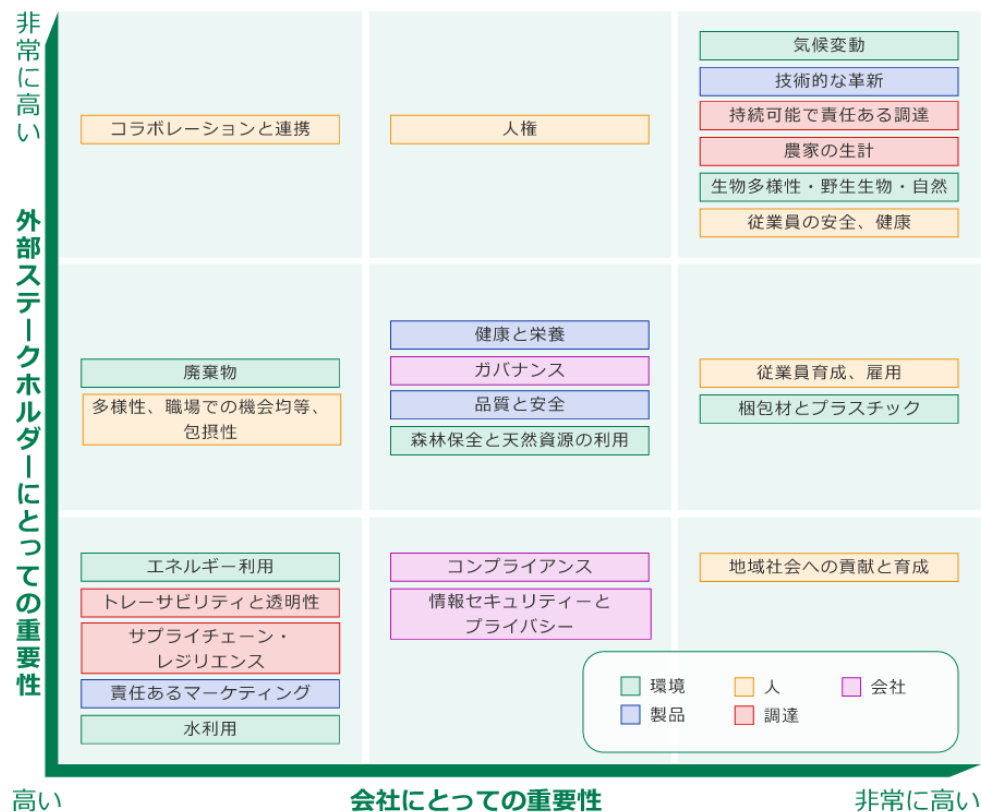
アートコーヒーでは、サステナビリティへの対応を全社的かつ組織横断的なものとし、円滑かつ効果的に推進することを目的として、親会社であるユニカフェと合同で、上図のようなサステナビリティ推進体制で活動を行っています。

活動の運用管理をサステナビリティ推進室が行い、具体的な取り組みの遂行は各本部からメンバーを選出したサステナビリティ委員会が行います。推進室と委員会で定期的に進捗報告会を行い、連携を図っています。

アートコーヒーのマテリアリティ

マテリアリティマップ

アートコーヒーでは社内・社外にとっての重要性を2軸として重要度を評価し、マテリアリティ・マップを作成しました。検討したどの課題も、社会的な重要度は高いため、評価軸の幅は最低でも“高い”となっています。そのため、対応する課題を絞るのではなく、優先度をつけてすべてに対応する姿勢をとっています。



マテリアリティ

様々なプロセスを経て、5つのマテリアリティを策定しました。

1. 気候変動・自然環境改善への貢献	気候変動を緩和し、自然環境を改善するためにできることを実施します。
2. 持続的なサプライチェーンの維持	コーヒー産業の維持・発展のため、サプライチェーンの現状を見つめ、未来に向けた再構築を行います。
3. 高品質な製品・魅力的な価値提供	お客様・消費者の方々に寄り添い、時代に合った価値を提供できるよう製品や新分野の開拓に努めます。
4. 多様な人材の活躍と連携	ここで働く誰もが心身ともに健康的に人生と仕事を両立し、地域やパートナー様により良い営業をもたらします。
5. コーポレート・ガバナンスの徹底	全てのステークホルダーのために、自律的に、かつ透明性を持って統制します。

2025年度の取り組み:1.気候変動・自然環境改善への貢献

GHG排出量を削減する

アートコーヒーでは、2025年までにScope1・2での温室効果ガス(GHG)排出量を46%削減、2040年までにScope1・2・3を100%削減(2019年比)することを目標に掲げています。

2019年からこれまでの間に、2021年に自社工場を閉鎖し、外注委託造への切替えを行いました。また、2024年末までに本社および地方支店の全ての事業所が再生電力を使用したオフィスへ移転が完了したことにより、Scope1・2でのGHG排出量は既に99%を削減しています。

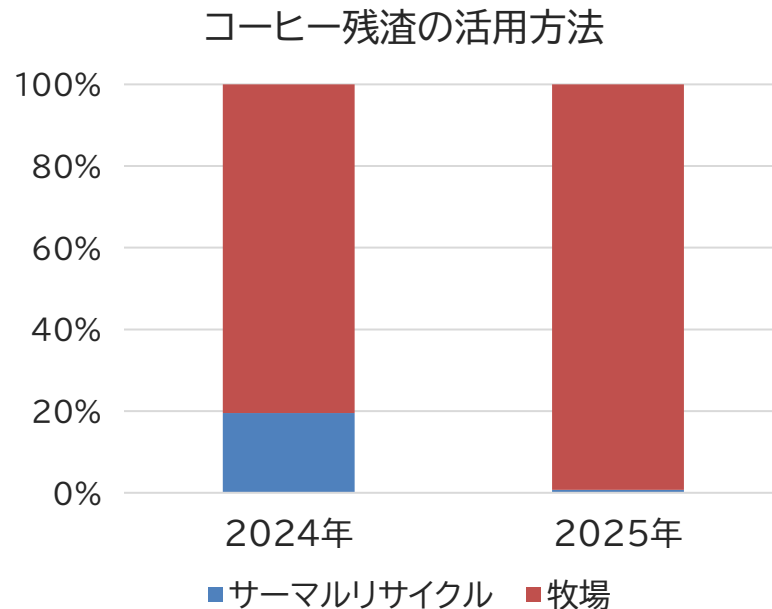


廃棄コーヒーの再利用

製造工程で生じるコーヒー残渣は、磯沼ミルクファーム様、服部牧場様が経営する牧場に提供して再利用しています。コーヒー残渣は牛舎の敷料にすることで牛たちの生活空間を快適にするとともに、牛舎内の臭いを和らげる効果があるため近隣地域の環境維持にも貢献しています。

また、磯沼ミルクファーム様では敷料として使用済みのコーヒー残渣と牛糞を混ぜて堆肥を生産・販売しています。

牧場で再利用していただくことで、コーヒー残渣は土に還り、他の農作物を育てる循環が作られています。

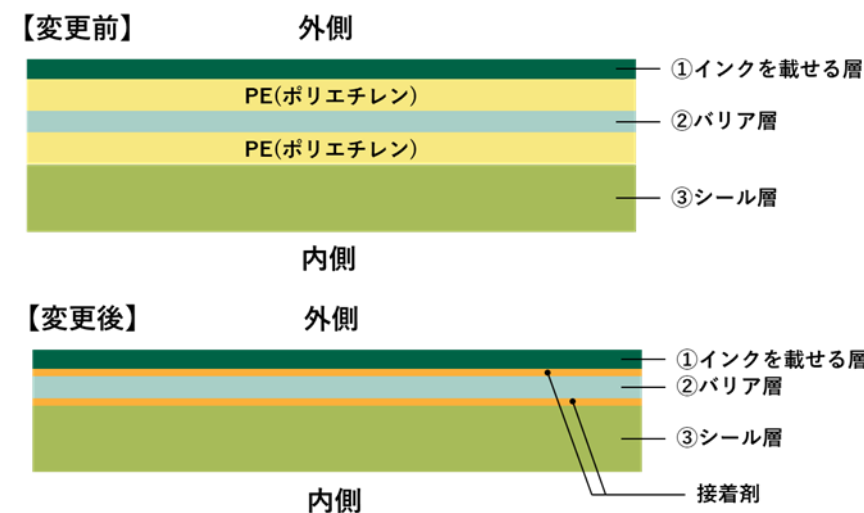


包材の薄肉化

コーヒーの包材は、いくつかの層が重なって出来ています。安全に製品をお届けするために不可欠の包材機能はそのままに、各層の接着剤として使用されていたPE(ポリエチレン)を、プラスチック由来でない接着剤へ切り替えることで、品質はそのままにプラスチック使用量の削減を進めています。

アートコーヒーでは、自社ブランド製品の包材を、順次プラスチック使用量の少ない薄肉化フィルムに切替えを行っており、この取り組みによってプラスチック使用量を年間978.6kg削減しました。

(包材変更前後のイメージ)



2025年度の取り組み:2.持続的なサプライチェーンの維持

各種認証製品の取り扱い強化

アートコーヒーでは、有機JAS認証、レインフォレスト・アライアンス認証、国際フェアトレード認証を取得した原料を使用した製品の取り扱いをしており、年間製造数量の約半数がこれらの認証原料を使った製品となっています。2022年には国際フェアトレード認証製品のリニューアルを行ったほか、自社ブランド製品の使用原料について、順次認証原料に切替えを進めるなど、持続可能な社会の実現に向け、取り組みの強化を図っています。



お取引先様へのサステナビリティ・セルフアセスメントの実施

アートコーヒーでは、「アートコーヒーの責任ある調達原則」、「サプライヤー行動規範」に則った調達を実施し、健全なサプライチェーンの維持に努めています。2024年度より、一部主要なお取引先様にご協力いただき、サステナビリティ・セルフ・アセスメントを実施しております。アセスメントの実施により、主要お取引先さまのサステナビリティなどに関する取り組み状況の確認とリスク把握を行っています。

■実施結果の概要(ユニカフェグループとして)

回答企業様数: 94社

対象企業様数:135社

平均得点率 : 76.6%(満点を100%として)

- ご協力いただいたお取引先様:一定金額以上の取引があり、かつ複数年連続して取引しているお取引先様のうち、各業種カテゴリの上位70%を占めるお取引様
- カテゴリ:原料、商品、配送、製造、その他
- 設問項目:人権、労働、環境、公正な企業活動、品質・安全性、サプライチェーンなどに関する設問

アセスメントの結果は、お取引先様とともに成長していくべくフィードバックの上、状況の改善に向けた取り組み支援や、コミュニケーション強化などにつなげてまいります。

2025年度の取り組み： 3.高品質な製品・ 魅力的な価値提供

2025年度の取り組み： 4.多様な人材の活躍と連携

2025年度の取り組み： 5.コーポレート・ガバナンスの徹底

機能性食品の研究開発

少子高齢化が進み、認知症、肥満、糖尿病、精神疾患などの増加が予測されています。

そんな中、出来るだけ長く健康的なシニア期を送ること、介護者・被介護者が出来るだけ快適に過ごすこと、それらに備え、若いうちからでも心身共に健康を保つためにできるセルフケア、といった側面にますます関心が寄せられています。

これら現代人の課題に対し、私たちにできることはないだろうか、と考え、持続可能な未来に向けて、健康配慮製品の提供を目標の一つとして掲げ、機能性表示食品を開発しました。

人権・ハラスメントに関する教育研修の実施

多様性を尊重し、受容し、一人ひとりに合った公正な環境を提供することで、全ての人々が自分らしく自己実現できる世の中が求められています。これまでの価値観や概念が大きく変わる側面もあり、新しい社会の考え方に柔軟に順応できるよう、従業員へ毎年1回、人権やハラスメントに関する教育研修を実施しています。

教育・研修制度の充実

「人材育成」は経営にとって最重要テーマの一つであり、従業員の活躍・成長を促す為、等級・職位別研修体系図を定めております。具体的には、次世代人材育成のために選抜型教育研修やe-learningを用いた学習、コーヒーのプロフェッショナルとしての知識向上ならびに資格取得支援を実施しています。

また、各部署の業務内容に関する相互理解を深めることによる業務効率化とリレーションシップ強化を目指し、不定期でオンライン勉強会を開催しています。

WEBの便利機能(リアクションやアンケートなど)の積極的な活用でリテラシーを高めるとともに、アットホームな雰囲気を育むことで社内コミュニケーションの強化にも貢献しています。

リスクマネジメントに対する取り組み

アートコーヒーでは、各種法令を遵守した企業活動を行うべく、年1回、全従業員を対象として、法令違反のケーススタディに則ったチームディスカッションと、オンラインによる研修を実施し、コンプライアンス遵守に対する意識を高めています。

また、年1回の情報セキュリティ研修の実施とともに、不定期でウィルスメールを模したメールを配信する等して、実践的な訓練を行っています。

人権の尊重

私たちの事業が持続的に発展していくためには、製品やサービスの品質の向上だけではなく、法令遵守はもちろん、社会が求める倫理的な責任を果たすことが不可欠です。

アートコーヒーは、従業員および役員ひとりひとりが人権への理解を深め、人権尊重の責任を果たすために、人権方針を定めました。

私たちはこの方針に基づき、人権が尊重される社会の実現を目指します。この人権方針は、従業員の行動指針である「ユニカフェグループ社員の行動規範」とサプライヤーに期待することを定めた「アートコーヒー サプライヤー行動規範」にも反映され、「責任ある調達原則」の「人権の尊重」に関する上位方針として位置づけられています。

方針策定後も、社員やサプライヤーなどのステークホルダーとの対話を通じて更に理解を深める努力を継続することが重要であると考えています。

人権デューデリジェンスの実施

人権方針の策定にあたり、人権への負の影響リスクの把握と特定・予防・軽減・対応を行うため親会社のユニカフェとともに人権デューデリジェンスを実施しました。人権デューデリジェンスは、人権への負の影響の防止・軽減を図るための継続的なプロセスです。進捗状況は適時適切に開示してまいります。

・負の影響の特定・評価及び優先順位付け

人権リスク評価において、まず人権への負の影響がどのように発生するか（誰がどのような人権について負の影響を受けるか）を具体的に特定していきました。

負の影響の特定にあたっては、社内外の資料ならびに公開情報による整理のほか、ステークホルダーへのヒアリングを行い情報収集を行いました。これらの情報を踏まえ、経済産業省のガイドラインを基に以下のプロセスで人権への負の影響と企業の関わりを評価し、優先順位の整理を行いました。

なお、評価は人権への負の影響が多く確認された、バリューチェーンの上流(コーヒー豆生産現場)と中流(ユニカフェグループ)の二つに分けて実施しました。

・企業の関わりの評価: 自社が負の影響を引き起こしたか(引き起こす可能性があるか)、負の影響を助長したか(助長する可能性があるか)、又は、負の影響が自社の事業・製品・サービスと直接関連しているか(直接関連する可能性があるか)について評価

・深刻度と発生可能性のリスク評価: 深刻度は 3 つの観点(規模・範囲・救済困難度)で評価

・優先順位の整理: 「企業の関わりの評価」「深刻性と発生可能性のリスク評価」を行った上で、各リスクの優先順位付けを実施

上記のプロセスの結果、サプライチェーン上流のコーヒー豆生産現場において、労働安全面での人権リスクが非常に高いことが特定されました。私たちは現在行っている責任ある調達原則に基づく取り組みを引き続き推進してまいります。

人権の尊重:人権デューデリジェンスの実施

上流(コーヒー豆生産現場)の対応状況と負の影響の防止・軽減策

上流(コーヒー豆生産現場)に対して取りうる策は大きく分けて、「負の影響に関与していないとされるコーヒー豆の調達に努めること」と、課題のある産地に対して「課題を解消するための支援を提供すること」が考えられます。

アートコーヒーが行っているコーヒー豆生産現場に関する取り組みは以下のとおりです。

※一部ユニカフェグループとしての取り組みを含みます。

・コーヒー豆の調達に関する取り組み

アートコーヒーでは「責任ある調達原則」と「サプライヤー行動規範」を策定し、持続的なサプライチェーンの維持に向けて取り組んでいます。

また、上記調達原則に沿ったサステナビリティ・セルフ・アセスメントを一部取引先を対象に実施し、取引先の取り組み状況の確認とリスク把握に取り組んでいます。

そして、認証原料の使用を推進・推奨しています。

今後、優先順位が高いと特定された負の影響項目については、サプライヤー向け自己評価の設問項目において定期的に確認を行ってまいります。

・産地支援に関する取り組み

ユニカフェグループではコーヒー生産者支援として「苗木寄贈プロジェクト」を2022年より実施しています。

ベトナム・グアテマラ・ブラジルへの寄贈を毎年行っており、寄贈本数は2025年末時点で累計154,960本となりました。

今後も同国に継続的な苗木の寄贈とコーヒー豆の購入を行うことを予定しており、引き続き産地での安定したコーヒー生産に貢献できるよう努めてまいります。



中流(ユニカフェグループ)の対応状況と負の影響の防止・軽減策

ユニカフェグループでは、従業員一人ひとりが人権への理解を深め、人権尊重の責任を果たしていくため、以下の取り組みを行っています。

・労働安全衛生の取り組み

ユニカフェグループでは、従業員の健康と安全の確保が企業活動の最重要基盤であると認識し、安全衛生方針に則り全社一丸となった安全衛生活動を推進しています。過重労働の防止や労働安全の課題に対しては、安全衛生委員会を中心にリスクの防止・軽減に寄与する改善策を検討し、実施しています。

・従業員向け苦情処理メカニズムの周知

雇用における差別的待遇の防止のため、毎年職場アンケートによる実態把握、ホットラインなどの通報窓口の設置、ハラスメント防止研修を継続して行っています。苦情処理メカニズムは、直接雇用、非正規雇用に関わらず受け付けており、通報者に対する不利益な扱いについては一切しないことを保証する制度となっています。

・差別の禁止、ハラスメント防止に関する社内研修の実施

ユニカフェグループでは、従業員に対しあらゆる差別の禁止やハラスメント防止を目的とした研修を継続的に実施しています。研修では、ハラスメントや差別の具体的な事例も例示しながら、従業員一人ひとりの人権への意識向上を図っています。

人権の尊重: 人権デューデリジェンスの実施

ロードマップ

人権デューデリジェンスにおいて特定できた負の影響(人権侵害リスク)に対する優先順位付けと、負の影響の防止・軽減策を踏まえ、今後ユニカフェグループが実施していくロードマップは以下の通りです。

人権侵害リスク軽減のため、今後も取り組みを進めてまいります。

		～2025年度	2026～2029年度	2030年度	
方針による コミットメント	人権方針	人権方針の 策定・公開	グループ内外への浸透 (グループ内および主要サプライヤーへの研修の実施)		
人権デュー・ デリジェンス	人権リスクの 評価	人権リスク評価 の実施		人権リスク評価 再実施	
	負の影響の 防止・軽減	サプライチェーン	ユニカフェグループの「責任ある調達原則」「サプライヤー行動規範」に基づく調達 既存の取組を継続(サステナビリティ・セルフアセスメント) サプライチェーン上流の優先度が高い人権項目について、SAQおよびサプライヤーの状況を再確認 → 必要に応じてSAQに反映		
		ユニカフェ グループ	産地支援の検討・実施		
			グループ内従業員の顕著な人権課題の防止・軽減策の継続実施 (労働時間、労働安全衛生、差別・ハラスメント、男女格差等に関し、既存人事方針の運用、社員アンケートによる実態把握等)		
	取り組みの 実効性評価		上記負の影響の防止・軽減策に対す るモニタリング・レビューの体制構築	モニタリング・レビューの実施	
	説明・情報開示	サステナビリティレポートの発行			
是正	苦情処理 メカニズム	取引先向けの苦情受付窓口、勤務者向けの社外ホットラインの運用			
		従業員・サプライチェーン関係者へ通報窓口の周知			

ART COFFEE